

2026 年 8 月 18 日

製造業、小売、農業、電力など、長期的な事業計画を支援  
ウェザーニューズ、24 か月予報の気象予報業務許可を取得  
法人向け気象情報「ウェザーニューズ for business」の AI エージェントで提供

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:石橋 知博)は、最長 24 か月先までの長期気象予測を行うための予報業務許可を新たに取得しました。これに伴い、気候変動リスクが高まる現代のビジネスニーズに応え、法人向け気象情報サービス「ウェザーニューズ for business」において、24 か月先までの月別気温を予測する長期気象予報の提供を開始しました。

「ウェザーニューズ for business」の AI エージェントに「来年の夏の東京の気温は？」などとチャット形式で入力するだけで、即座に AI が情報を集約してお答えします。また「データをグラフ化して」や「CSV でダウンロードしたい」などの要望にも対応できます。これにより、専門的なシステム操作なしで気象データを実務に活用できます。また 7 か月先以降は予報の信頼度もあわせて提示します。これにより気温が平年より高め・低めになるという傾向の当たりやすさの目安を把握することができ、柔軟な計画立案を可能にしています。製造業や小売、農業、電力など、気象の傾向を組み込んだ、根拠ある中長期的な事業計画やリスクマネジメントを行う企業の意思決定を支援いたします。

「ウェザーニューズ for business」のサービスサイトはこちら

<https://wxtch.weathernews.com/products/wfb/>

お問い合わせはこちらから

<https://wxtch.weathernews.com/contact/inquiry/>

◆24 か月予報を「ウェザーニューズ for business」で提供

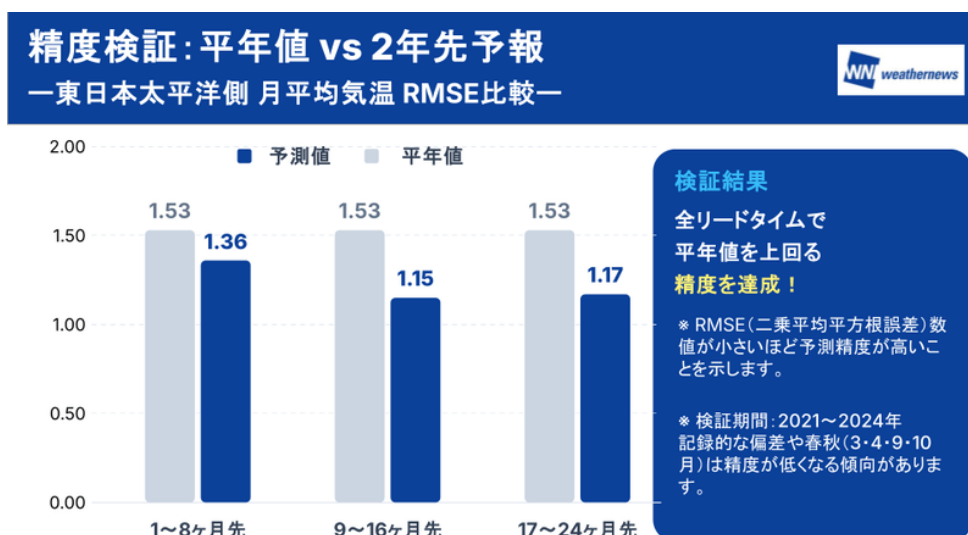
当社は最長 24 か月先までの気象予測を行うための予報業務許可を新たに取得し、全国約 790 地点の月別気温予測を、法人向け気象情報「ウェザーニューズ for business」の AI エージェントを通じて誰もが簡単に取得できる環境を整えました。

この 24 か月予報の強みは、従来の手法とは全く異なるアプローチによって実現した予報精度の高さです。一般的な気象予測は物理シミュレーションを中心としており、大気の状態を現在から未来へと細かく区切って

計算を進めます。しかしこの手法は日々の天気予報で高い精度を発揮する一方、月から年単位の長期スケールでは計算コストや系統誤差の制約を受けるという課題がありました。一方、当社の 24 か月予報は機械学習を中心とする最先端技術を採用しています。遠く離れた熱帯地域の海面水温と、日本各地の気温との間にある統計的な関係を学習しています。そのため、原因と結果の相関の強さが保たれている限り、6 か月先でも 24 か月先でも予測精度はほぼ変わらないという特性を持っています。リードタイムが長くなるほど精度が下がるというこれまでの常識をくつがえし、24 か月先まで高い精度を維持することができています。

東日本太平洋側の月平均気温を対象とした検証において、毎年同じ気候が繰り返されると仮定した平年値で予測した場合の誤差を示す数値が 1.53℃であったのに対し、当社の予報では 6 か月先が 1.36℃、1 年先が 1.15℃、2 年先が 1.17℃という結果となりました。すべての期間において平年値を上回る高い予測精度を達成しており、さらに 1 年先と 2 年先でほぼ同等の精度を示していることは、当社の AI による予測ならではの強みです。

また、7 か月先以降の各月の予報には「高・中・低」の 3 段階で信頼度を提示しています。信頼度は気温が平年より高め・低めになるという傾向の当たりやすさの目安です。熱帯地域の海面水温や対流活動の偏りが大きいほど信頼度が高くなります。これにより、柔軟な計画立案が可能になります。電力や小売、農業をはじめとするあらゆる産業において、これまでの前年の実績や経験則のみに頼ることなく中長期的な事業計画やリスクマネジメントを行う企業の意思決定を支援いたします。



#### ◇法人向け気象情報サービス「ウェザーニュース for business」

当社は、2022 年 9 月よりお天気アプリ「ウェザーニュース」を法人向けに拡張した「ウェザーニュース for business」を提供しています。「ウェザーニュース」をそのまま業務でご利用いただけるように、アプリ上に企業や団体の専用ページやプッシュ通知を追加し、ニーズにあわせてカスタマイズした気象情報を提供しています。

「ウェザーニュース for business」は、拠点の防災や BCP 対策、工場やビルの施設管理、工事現場での作業判断や作業員の働き方改革、花火大会やイルミネーションなどのイベント運営など、様々な市場のニーズに対応します。スタッフ間の情報の一元化や、プッシュ通知の活用によって、見逃しの減少や対応スピードの迅速化が期待できます。

拠点ごとの天気予報や雨雲レーダー、落雷、停電リスク、台風の進路予測、河川水位、冠水・浸水予報、避難情報、店舗の閉店・再開判断など、様々な気象情報を提供しています。一般の有料会員向けのメニューである雨雲レーダーや台風進路予測のほか、雨雲アラームなどのプッシュ通知機能もご利用可能です。

また、管理者向けのパソコン版専用ウェブサイトも用意しており、数か所～数千か所の拠点とあらゆる気象情報をマップ上で重ね合わせることができます。全拠点の気象リスクを閲覧できるので、災害対策本部や危機管理の担当者などが拠点のリスクを網羅的に把握したい場合に適しています。